

学会誌 社会言語科学

(The Japanese Journal of Language in Society)

投稿規定 (2015 年 7 月 19 日改訂)

1. 投稿内容は未公開のものに限る。ただし学会での口頭発表ないし予稿集に掲載された原稿、科学研究費補助金などの研究報告書に掲載された原稿、公開されていない修士論文や博士論文の一部は投稿して差し支えない。なお、機関リポジトリなどウェブ上で公開されているだけの博士論文は未公開のものとして扱う。
2. 他の学術誌に投稿中の原稿と同じ内容で投稿すること（二重投稿）は認めない。
3. 原稿の投稿者は社会言語科学学会の会員でなければならない。共著の場合は、筆頭著者が会員であればよい。なお、編集委員会が原稿を依頼する場合は、この限りでない。
4. 投稿は随時受け付ける。ただし特集の原稿に関しては受付の期限を定める。
5. 投稿原稿の執筆は「執筆要項」に従うこととする。提出された原稿は、原則として返却しない。
6. 投稿原稿は、編集委員会が審査し、掲載の可否を決定する。
7. 掲載される原稿の原稿料は支払わない。
8. 掲載原稿の執筆者には、1編につき抜刷20部を無料で贈呈する。
9. 掲載原稿の印刷に要する費用は、原則として本学会の負担とする。ただし、特殊な活字、図版の作成等により特別な費用がかかるときには、その費用は投稿者の負担とする。
10. 図やイラスト、写真などの掲載に際して著作権・肖像権に関する処理が必要な場合は、執筆者自身が行うこととする。
11. 掲載された論文等に関する国内外の著作権は、原則として本学会に帰属する。本学会は掲載原稿を電子化または複製の形態などで公開・配布する権利を有するものとする。
12. 掲載原稿の執筆者は、掲載された論文等を機関リポジトリや個人のウェブサイトで公開することができる。ただし、学会誌刊行後2年間は公開できないものとする。

執筆要項 (2020 年 1 月 20 日改訂)

1. 投稿原稿の種類
 - ・ 投稿原稿の種類は研究論文、展望論文、資料、ショートノートとする。
 - a. 研究論文 —— 独創性のある実証的または理論的な論文
 - b. 展望論文 —— 重要な課題に関する内外諸研究を幅広く検討し、独自の観点から総合的に概観する論文
 - c. 資料 —— 言語資料、実験・調査の結果などの報告で、従来の学説の吟味検討や今後の研究展開に資することを目的とする論考
 - d. ショートノート —— 萌芽的な問題の指摘、新事実の発見や興味深い観察及び少数事例に関する報告、研究装置や研究方法に関する指摘・提案など
 - ・ 原稿の種類は著者が投稿時に指定する。ただし編集委員会は判定結果に基づき、審査途中で著者に種類の変更を求めることがある。
 - ・ 編集委員会は、上記の種類の前稿のほかに、巻頭言、特別寄稿、書評、報告などを会員に依頼することがある。
 - ・ 依頼原稿も含め、投稿原稿はすべて編集委員会が主体となって査読を行う。
2. 投稿原稿の書式・分量
 - ・ 原稿本文は日本語または英語で書くこととする。表題と要旨とキーワードは日本語と英語の両方とする。
 - ・ 執筆言語が母語でない場合は、専門的な知識を有する母語話者等のチェックを受けること。
 - ・ 原稿は縦置き横書きとする。句読点は「. , 」とする。
 - ・ 原稿は、原則として「投稿原稿テンプレート」（日本語用 Word ファイル、英語用 Word ファイル、日本語用 LaTeX ファイル）を使い、その説明に従って書く。
 - ・ 投稿原稿の分量は、研究論文は本文のほか表題、著者名・所属、和文要旨・英文要旨、参考文献、

注、表、図等を含め、「投稿原稿テンプレート」の書式で16ページ以内とする。展望論文は同じく16ページ以内を、ショートノートは8ページ以内とする。その他の原稿については簡潔を旨とし、研究論文の基準を上回らないものとする。和文要旨はいずれも600字以内、英文要旨はいずれも200語以内とする。

- ・査読結果によって加筆修正が必要になった場合でも、原稿の分量は上記のとおりとする。そのため、投稿時の原稿の分量は規定より少なめにしておくのが望ましい。
- ・誌面はモノクロ印刷になるので、提出原稿は図表を含め、すべてモノクロにする。グラフなどはモノクロでも見やすいように工夫すること。どうしてもカラー印刷にする必要があるときは、著者の費用負担によりカラー印刷を認めることがある。
- ・図表は本文中の適当な個所に入れること。図表中の文字は8ポイント以上にする。
- ・本文のなかで章・節等の記号をつける場合には、章は1., 2., ……、第1章第1節は1.1のようにし、以下これに準ずる。
- ・本文中の外国人名等の固有名詞は、原綴りあるいは英語綴りを原則とするが、公式の名称等として著名なものはカタカナでもよい。
- ・注は、必要最小限にとどめる。入れる場合は論文の末尾に入れる「末尾注」とし、脚注は用いない。

3. 参考文献の書式

- ・本文中での参考文献の引用は、原則として以下のようにする。
安田・海野(1977)によれば……, Spitzberg & Cupach(1984)は, ……
～である(安田・海野, 1977). , ～という(Spitzberg & Cupach, 1984). , ～である(柴田, 1978 ; 竹内, 1982).
- ・参考文献の表記は、原則として以下のようにし、一般的な日本語とアルファベットによるものを原則とする。その配列は、和文文献と欧文文献を分けず、原則としてアルファベット順とする。なお、3名以上の著者による論文を本文中で引用する場合、執筆者は自らの判断で初回から3名以降の著者名を省略できる(例えば「[筆頭著者名]ほか」)。また、参考文献には全著者の姓名を省略せずに記載する(ミドルネームはイニシャルのみ、あるいは省略可)こととする。
 - ①和文の単行本(単著、共著、編著)の場合
柴田武(1978). 社会言語学の課題 三省堂
安田三郎・海野道郎(1977). 社会統計学 改訂2版 丸善
橋元良明(編)(2005). 講座社会言語科学2 メディア ひつじ書房
 - ②和文の編著書中の論文の場合
竹内郁郎(1982). 受容過程の研究 竹内郁郎・児島和人(編)現代マスコミュニケーション論, pp. 44-79. 有斐閣
 - ③和文の逐次刊行物の場合
 - ・「巻」で通しページの場合、または「号」「集」等の上に「巻」がない場合:
芳賀純(1963). 日本人学生の学習した英語名詞の意味構造の比較研究 教育心理学研究, 11, 33-42.
 - ・「巻」の下に「号」等があり、「号」ごとにページが変わる場合:
渋谷勝己(2000). 徳川学の流れー方言学から社会言語学へー 社会言語科学, 2(2), 2-10.
 - ④欧文の単行本(単著、共著、編著)の場合
Norrick, Neal R. (2000). *Conversational narrative: Storytelling in everyday talk*. Amsterdam: John Benjamins Publishing Company.
Spitzberg, Brian H., & Cupach, William R. (1984). *Interpersonal communication competence*. Beverly Hills, CA: Sage.
Dorian, Nancy C. (Ed.) (1989). *Investigating obsolescence*. Cambridge: Cambridge University Press.
 - ⑤欧文の編著書中の論文の場合
Atlas, Jay D. (2004). Presupposition. In Horn Laurence R., & Ward, Gregory (Eds.), *The handbook of pragmatics*, pp. 29-52. Malden, MA: Blackwell.
Hymes, Dell (1972). Models of the interaction of language and social life. In Gumperz, John, & Hymes, Dell (Eds.), *Directions in sociolinguistics*, pp. 35-71. New York: Holt, Rinehart & Winston.
 - ⑥欧文の逐次刊行物の場合
 - ・「巻」で通しページの場合、または「号」「集」等の上に「巻」がない場合:
Zajonc, Robert B. (1980). Feeling and thinking: Preferences need no inferences. *American*

Psychologist, 35, 151-175.

- ・「巻」の下に「号」等があり、「号」ごとにページが変わる場合：
Sacks, Harvey, Schegloff, Emanuel, & Jefferson, Gail (1974). A simplest systematic for the organization of turn-taking for conversation. *Language*, 50 (4), 696-735.

⑦翻訳書

Lave, Jean, & Wenger, Etienne (1991). *Situated learning: Legitimate peripheral participation*. Cambridge: Cambridge University Press. (佐伯胖訳 (1993). 状況に埋め込まれた学習 産業図書)

⑧学会などでの発表 (予稿集などに掲載されたもの)

山田寛 (2007). 顔面表情認知における情報処理過程 社会言語科学会第19回大会発表論文集, 346-349.

⑨インターネット上の資料の引用 (かつこ内は資料にアクセスした日)

社会言語科学会 (2004). 原稿募集のお知らせ 社会言語科学会 2004年11月8日
<<http://www.jass.ne.jp/ed/gakkaisi.html>> (2007年6月20日)

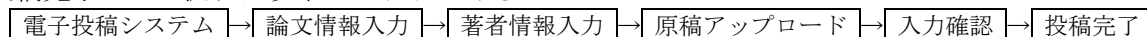
⑩博士論文など

Kita, Sotaro (1993). *Language and thought interface: A study of spontaneous gestures and Japanese mimetics*. Doctoral Dissertation, Department of Psychology and Department of Linguistics, University of Chicago, Chicago, Illinois.

4. 投稿方法

- ・原稿は、本学会の下記「電子投稿システム」内の新規投稿ページより投稿すること。
(<https://www.bunken.org/jass/journal/applicant/top.php>)

- ・投稿完了までの流れは以下のとおりである。



- ・投稿を受理すると、編集事務局は自動的に原稿受理日、論文番号などを投稿者に電子メールで通知する (返信は不要)。

- ・不明な点があれば、下記編集事務局に問い合わせること。

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-4-19

(株) 国際文献社内 『社会言語科学』 編集事務局

TEL: 03-5389-6492 FAX: 03-3368-2830 E-mail: jass-edit@bunken.co.jp

5. 投稿の際に必要な物

- ・投稿者は、原則として「投稿原稿テンプレート」(日本語用 Word ファイル, 英語用 Word ファイル, 日本語用 LaTeX ファイル) に従って投稿原稿を作成すること。なお、本文や注, 参考文献, 謝辞, 付記の書き方などで著者が特定できるような場合, その部分を削除するか伏せ字にして匿名性を確保すること。

- ・投稿原稿は、PDF ファイルにして新規投稿ページより電子的に投稿すること。なお、電子投稿システム内の PDF コンバート機能を用いて、投稿原稿を PDF 化することができる。なお、個人で PDF ファイルを作成する場合は、ファイルの「プロパティ」から作成者に関連する情報を必ず消去すること。

- ・電子投稿の際には以下の論文情報が必要になる。投稿原稿から転記すること。

(1) 論文表題 (和文・英文), (2) 論文ジャンル (研究論文, 展望論文など), (3) 論文種別 (一般/特集) (4) 特集名 (特集号の場合のみ), (5) 論文要旨 (日本語600字以内, 英語200語以内)。

- ・著者情報入力ページには、氏名 (漢字, 仮名, 英字), 所属機関 (漢字, 英字), 会員番号 (ID) を入力する。

6. 査読及び刊行スケジュール

- ・原稿の査読は、担当編集委員及び2名の査読者によって行い、担当編集委員が査読者の評価を取りまとめ、編集委員会に判定結果を報告して承認を受ける。判定結果は、A (そのまま掲載可), B (修正の上, 掲載可), C (修正の上, 再審査), D (掲載不可) のいずれかとし、原稿受理日から原則として3ヶ月以内に投稿者に電子メールで通知する。

- ・判定結果に基づき、第3査読者を依頼することがある。その際は、編集委員会からの電子メールにて著者に通知する。

- ・本誌は年度ごとに2回、8月末と2月末に刊行する。投稿は随時受け付けているが、刊行時期の3ヶ月前までに掲載が決定しない場合は、掲載が次号以降 (特集のための投稿原稿についても同様) になる

ので、留意されたい。

7. 掲載決定後の入稿方法

- 掲載が決定した場合は、修正後の投稿原稿に、前記(3) 著者名・所属と(7) 著者名ローマ字・英語の所属名を追加し、投稿原稿において削除または伏せ字にした著者関連情報を明示して、完成原稿を作成する。
- 完成原稿は、プリントアウト原稿と電子ファイル原稿の両方の形式を用意する。なお、プリントアウト原稿は上記の編集事務局所在地宛に送り、電子ファイル原稿は編集事務局E-mailアドレスに送信する。
- プリントアウト原稿は、完成原稿と同じ体裁・内容とする。但し、図・表は本文(表題、著者名、和文・英文要旨、キーワードを含む)とは別にプリントアウトし、挿入希望個所をプリントアウト原稿の本文部分に指示する。
- 図・表は1枚の用紙に一つだけ書く。また、図と表のそれぞれに一連番号をつけ、さらに題(説明、キャプション)をつける。
- 図・表は、プリントアウトをそのまま利用して編集することがあるので、鮮明なものを用意する。刷り上がりの大きさは編集委員会の裁量による。
- 電子ファイル原稿は、原則として「投稿原稿テンプレート」(日本語用Wordファイル、英語用Wordファイル、日本語用LaTeXファイル)に入力したファイルとする。それに加えて、図・表部分はPDFファイルまたはMicrosoft Wordファイルとして別につける。
- 著者校正は原則として二校までとする。校正の際の原稿への加除は認めない。

The Japanese Journal of Language in Society

Submission Guidelines (Revised December 20, 2015)

1. Submissions are limited to unpublished manuscripts. Manuscripts deriving from oral presentations at conferences or which have previously appeared in a conference booklet, papers which have been published as research reports for funding, and unpublished Master theses or parts of Doctoral theses may also be submitted. Doctoral papers published on institutional repositories and other such forms on the Internet are considered as unpublished.
2. Manuscripts of the same content of manuscripts that have been submitted to other journals will not be accepted.
3. Submissions are limited to members of the Japanese Association of Sociolinguistic Sciences. When there is more than one author, one author must be a member of the Association. Exceptions may be made if the editorial committee requests a manuscript.
4. Manuscripts may be submitted at any time. However, deadlines may be set for special issues.
5. Manuscripts should be prepared in accordance with the 'Style Guide.' In general, manuscripts will not be returned to the author.
6. Submissions will be reviewed by the editing committee who will decide whether or not the manuscript will be accepted.
7. Authors will receive no payment for accepted manuscripts.
8. 20 offprints of each paper will be supplied to the author for free.
9. The Association is responsible for publication expenses. If special expenses are required for specialized printing, the author will be responsible for these expenses.
10. The author is responsible for obtaining permission to reproduce any diagrams, illustrations, or photographs for which they do not own the copyright.
11. The Association retains the copyright of accepted papers. The Association retains the right to copy and reproduce accepted papers in both electronic or hard copy form.
12. The author of the manuscript may publish the manuscript on an institutional repository or on his/her own website. However, these may not be published within two years of publication in the Journal.

Style Guide (Revised January 20, 2020)

1. Manuscript types

Manuscripts should be one of the following types:

- a. Research Paper: Should be original, verifiable/empirical, and theoretical.
- b. Research Overview: Should provide an insightful and comprehensive overview of the subject, of which the author has extensively reviewed the related research.
- c. Study of Material: Includes reports on linguistic material, and experiment and survey results. Papers should intensively review relevant theory and aim towards development of the topic.
- d. Short Notes: Includes notes on new issues, reports on new findings or observations, case studies, and comments or suggestions related to research materials or methods.

The author should designate the manuscript type at the time of submission. However, while the manuscript is under review, the editorial committee may request the author to change the type of his/her manuscript.

The editorial committee may request members of the association to write manuscripts other than the types outlined above, such as introductory notes, solicited papers, book reviews, or reports.

All manuscripts, including requested manuscripts, will be reviewed by the editorial committee.

2. Submission format

Manuscripts may be submitted in either Japanese or English. The title, the abstract and the keywords must be written in both English and Japanese.

Manuscripts written by non-native speakers should be corrected and edited by a qualified native speaker with expertise in that area.

Manuscripts written in Japanese must be written horizontally and from left to right. The symbols “.” and “,” are to be used for punctuation.

Authors should prepare the manuscript in accordance with the manuscript template (Word file for Japanese, Word file for English, or La Tex file for Japanese).

The maximum length of the final version of a research paper written within the manuscript template, including the main text, title, author(s) and affiliation(s), Japanese abstract, English abstract, references, notes, tables and figures, is 16 pages. The maximum length of a research overview is also 16 pages, while the maximum length of a short note is 8 pages. Other types of manuscripts should be concise, and not exceed the length of a research paper. The Japanese abstract should be no more than 600 characters, while the English abstract should be no more than 200 words.

Should corrections need to be made following peer review, these need to be made within the above maximum manuscript lengths. Authors are advised to allow for this when writing the initial manuscript.

As publication is in black and white, manuscripts, including any illustrations or drawings should be monochrome.

Tables and figures should be inserted within the main text. Letters used in tables and figures must be at least 8 point.

If chapters and sections within the text are to be numbered, use 1., 2., etc. for chapters and 1.1, 1.2, etc. for sections.

Non-Japanese proper nouns, including names, cited within the main text are to be written in their original form or in English. If an official name exists in *katakana*, that name may be used.

Notes should appear as endnotes after the end of the main text.

3. References

References in the text should use the author/date system, e.g.: (Spitzberg & Cupach, 1984), (Shibata, 1978; Takeuchi, 1982). When the author's name appears in the text, use: Spitzberg & Cupach (1984).

When citing a reference with three or more authors in the body, authors may omit the names of the second and later authors as in “(First author's name) et al.” However, the full names of all authors must be included in the list of references (middle names may be abbreviated or omitted).

Japanese references should be written in Japanese, while references written in other languages should be written in alphabet. Japanese references and non-Japanese references should be listed together, in alphabetic order, and follow the following guidelines:

(1) Books in Japanese (single author, multiple author, edited book):

- Shibata, Takeshi (1978). *Shakai Gengogaku no Kadai*. Tokyo: Sanseido.
- Yasuda, Saburo, & Umino, Michio (1977). *Shakai Tokeigaku*. 2nd edition. Tokyo: Maruzen.
- Hashimoto, Yoshiaki (Ed.) (2005) *Koza Shakai Gengo Kagaku 2 Media*. Tokyo: Hitsuji Shobo.

(2) Chapters cited in edited books in Japanese:

- Takeuchi, Ikuo (1982). Juyo Katei no Kenkyu. In Takeuchi, Ikuo, & Kojima, Kazuto (Eds.) *Gendai Masukomyunikeshonron*, pp. 44-79. Tokyo: Yuhikaku.

(3) Periodicals in Japanese:

When only the volume or the issue number is given:

- Haga, Jun (1963). Nihonjin Gakusei no Gakushushita Eigo Meishi no Imi Kozo no Hikaku Kenkyu. *Kyoiku Shinrigaku Kenkyu*, 11, 33-42.

When both a volume and an issue number are given:

- Shibuya, Katsumi (2000). Tokugawagaku no Nagare - Hogengaku kara Shakai Gengogaku e -. *Shakai Gengo Kagaku*, 2 (2), 2-10.

(4) Books in European languages (single author, multiple author, edited book):

- Norrick, Neal R. (2000). *Conversational narrative: Storytelling in everyday talk*. Amsterdam: John Benjamins Publishing Company.
- Spitzberg, Brian H., & Cupach, William R. (1984). *Interpersonal communication*

- competence*. Beverly Hills, CA: Sage.
- Dorian, Nancy C. (Ed.) (1984). *Investigating obsolescence*. Cambridge: Cambridge University Press.
- (5) Chapters in edited books in European languages:
- Atlas, Jay D. (2004). Presupposition. In Horn, Laurence R., & Ward, Gregory (Eds.), *The handbook of pragmatics*, pp. 29-52. Malden, MA: Blackwell.
 - Winton, Ward M. (1990). Language and emotion. In Giles, Howard, & Robinson, W. Peter (Eds.), *Handbook of language and social psychology*, pp. 33-49. New York: John Wiley & Sons.
 - Hymes, Dell (1972). Models of the interaction of language and social life. In Gumperz, John, & Hymes, Dell (Eds.), *Directions in sociolinguistics*, pp. 35-71. New York: Holt, Rinehart & Winston.
- (6) Periodicals in European languages:
When the volume or the issue number is given:
- Zajonc, Robert B. (1980). Feeling and thinking: Preferences need no inferences. *American Psychologist*, 35, 151-175.
- When both a volume and an issue number are given:
- Sacks, Harvey, Schegloff, Emanuel, & Jefferson, Gail (1974). A simplest systematic for the organization of turn-taking for conversation. *Language*, 50 (4), 696-735.
- (7) Translated books:
- Lave, Jean, & Wenger, Etienne (1991). *Situated learning: Legitimate peripheral participation*. Cambridge: Cambridge University Press. (trans. Saeiki, Yutaka (1993). *Jokyo ni Umekomareta Gakusyū*. Tokyo: Sangyotosho)
- (8) Conference presentations (conference publications):
- Yamada, Hiroshi (2007). Gammen Hyojo Ninshiki ni Okeru Johoshori Katei. *Shakai Gengo Kagakukai 19 Kai Taikai Happyo Ronbunshu*, pp. 346-349.
- (9) Online references (The information within brackets indicates the date of access):
- Shakai Gengo Kagakukai (2004). Genkoboshu no oshirase. Shakai Gengo Kagakukai 2004-nen 11-gatsu 8-nichi. <<http://www.jass.ne.jp/ed/gakkaishi.html>> (June 20, 2007)
- (10) Doctoral dissertations:
- Kita, Sotaro (1993). *Language and thought interface: A study of spontaneous gestures and Japanese mimetics*. Doctoral dissertation, Department of Psychology and Department of Linguistics, University of Chicago, Chicago, Illinois.

4. Sending submissions

Manuscripts should be submitted using the journal's electronic submission system. (<https://www.bunken.org/jass/journal/applicant/top.php>). Follow the step-by-step instructions given by the system.

Upon receipt of a submission, the author will receive an email notification that the manuscript has been successfully submitted. This will include the date of submission and a manuscript submission number.

For any inquiries regarding the submission of manuscripts, please contact the journal's editorial office <jass-edit@bunken.co.jp>.

5. Submission procedure

Authors should prepare the manuscript in accordance with the manuscript template (Word file for Japanese, Word file for English, or La Tex file for Japanese). Any reference to the author(s) or the author's affiliation(s) in the main text, notes, references, or acknowledgements should be removed from the manuscript or indicated in a manner that maintains anonymity.

Manuscripts should be submitted in PDF format via the submission page of the web site. Manuscripts can be converted into PDF format by using the PDF conversion function provided on the web page. If the author creates the PDF prior to login, ensure that any information about the author is removed from the file properties before the file is uploaded.

The author will be required to input the following information: (1) the title of the paper in English and Japanese, (2) the manuscript type (research paper, research overview, etc.), (3) the

submission type (ordinary issue or special issue), (4) the title of special issue (if applicable), and (5) abstract in English (no more than 200 words) and Japanese (no more than 600 characters).

The author will also be required to provide his/her name (in *kanji*, *kana*, and alphabet), affiliation (in *kanji* and alphabet), and membership ID.

6. Peer review and publication schedule

Submitted manuscripts will be reviewed by three reviewers—a member of the editorial committee (“the editor-in-charge”) and two referees requested to review the paper by the editor-in-charge.

The editor-in-charge will summarize the reports from the referees, and propose a final decision to the editorial committee. After the committee’s confirmation, the author will be notified by email of the decision within three months of receipt of the manuscript. Notification will be in the form of, A (manuscript accepted), B (manuscript accepted after some corrections), C (manuscript to undergo peer review again after corrections), or D (not accepted).

Depending on the decision, the editor-in-charge may ask a third referee for additional judgment. In that case, the author will also be notified of the process.

The Journal is published biannually, in late August and late February. Submissions may be made at any time, however if publication has not been decided within three months of the publication date, publication will be extended to the following edition. The same applies for special editions.

7. Following acceptance:

After a manuscript has been accepted, the author will be requested to prepare the final manuscript. This manuscript should include the name(s) and affiliation(s) of the author(s) in both Japanese and English, and a revision of any places where names were removed to maintain anonymity.

Both a hard copy and an electronic copy of the final manuscript must be prepared. Please send a hard copy to the postal address of the editorial office (indicated below), and an electronic copy to the email address of the editorial office <jass-edit@bunken.co.jp>.

Postal address: The Editorial Office, the Japanese Journal of Language in Society
c/o Kokusai Bunken-sha
4-4-19 Takadanobaba, Shinjuku-ku, Tokyo, 169-0075 Japan
TEL: 03-5389-6492 FAX: 03-3368-2830

The hard copy of the final manuscript should be the same in form and content as the electronic manuscript. However, tables and figures should be printed out separately from the main text (which includes the title, author(s), Japanese and English abstracts, and keywords). Mark the approximate positioning of tables and figures in the text.

Tables and figures should each be on a separate page. They should be numbered consecutively and titled (a brief explanation or caption).

Clear hard copies of tables and figures need to be supplied as they may be reproduced in publication. The final size of tables and figures will be decided by the editorial committee.

The electronic copy of the manuscript should be a file using the manuscript template (Word file for Japanese, Word file for English, or La Tex file for Japanese). Tables and figures may be in either Microsoft Word format or PDF format.

The author may proofread up to the second proof for corrections. No additions or deletions can be made to the manuscript after the final proof stage.